甚小だより
明日咲くつぼみ

あま市立甚目寺小学校
平成 26 年度　第７号
平成26年　8月20日

２学期に向けて

出校日の子どもたちの様子を見ると、日焼けしてたくましく見える子、宿題等をやりきった表情を見せる子、休み中の思い出を楽しそうに語る子それぞれです。夏休みは残すところ 10 日あまりとなりました。少しずつ２学期に向けた生活のリズムをつくっていく時期となりました。

生活の基本は「早寝・早起き・朝ごはん」、そして、毎日決まった時間の学習と運動です。心と体の状態を整えて２学期を迎えてほしいと思います。

【中庭のひまわり】

【下水への接続工事】

学校では８月初旬から、プールの改修工事と公共下水への接続工事が行われており、それぞれの工期は 10 月末と 12 月末までとなっております。来校の際には通行等に不自由をおかけすることもありますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

天体観望

日頃の生活では、大人も子どもも仕事や勉強等でつい机や手先に視線が行き、「下を向いての生活」が多くなりがちです。時には夜空を眺めて星を見ることは、気分の転換とともによい姿勢づくりにもつながるのではないでしょうか。４年生の理科の教材には「夏の星」「月や星の動き」があります。今年も津島天文クラブ様のご協力を得て天体観望の機会を以下のように設けました。

・日　時　８月２０日（水）19:00～20:30（雨天の場合は中止）
・対　象　４年生希望者（夜間のため、保護者同伴による参加となります）

甚目寺でも肉眼で星を見たい

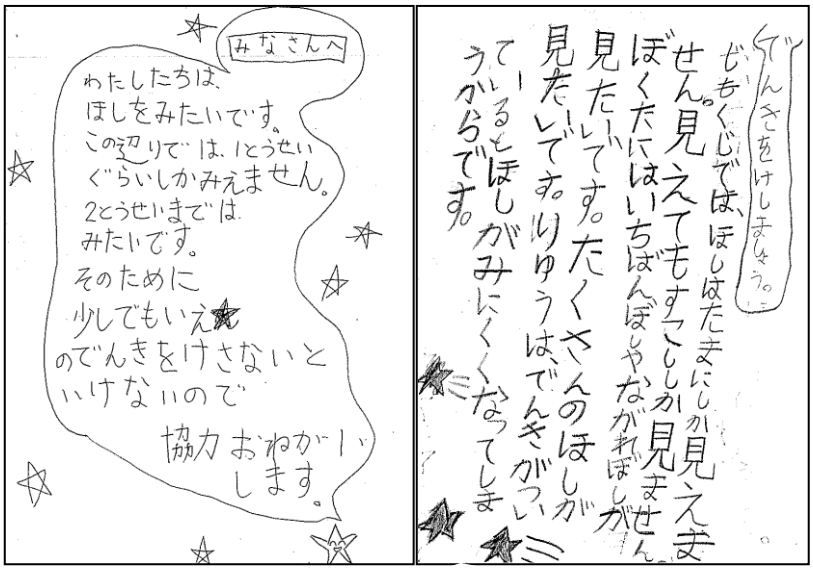
本年度の甚小だより第４号で以下のようなことを掲載しました。

> 5 月 26 日の朝礼で、野外活動の様子を紹介した際に「甚目寺では見られない星空を見ることができました」そして「どうして甚目寺では見えないのでしょう。また、どうしたら星をたくさん見ることができるのでしょう」という話をしたところ、早速数名の子が校長室を訪ねてくれました。
> ・電気を消せばよい。
> ・日と時間を決めて電気を消してもらうように呼びかけをする。
> ・できるだけ多くの人にこのことを知ってもらう。そのために手紙などをつくって配る。
> などの意見を述べてくれました。できることをできる範囲でやってみようという輪を少しずつひろげていけるとよいと考えています。

この後、１学期中にさらに多くの人が校長室を訪れ、少しでもよい条件で星空を見ることができるとよいという思いから、手紙を書いてくれました。以下に紹介します。甚目寺のそれぞれの場所から少しでも多くの星を見ることができることを願っています。

こんにちは
甚目寺小校の児童会です。
四年生が八月二十日に天体観測をする予定です。しかしこの辺りでは、山とは違い星をきれいにみる事は難しいです。その原因の一つは、甚目寺は、家の明りが多い事だと考えました。
そこで、天体観測の七時から八時までのわずかな時間だけでも明かりを消していただくとありがたいです。
ご協力お願いします。

【星空への思いを・・・】



■星空情報（8 月 20 日ごろ）
・ペルセウス座流星群（8 月 20 日くらいまで）
・月は月齢 24（逆の三日月くらい）

卒業生の活躍

ベンチ外れた友を思って

愛産大工・品川祐大君

2014 夏

9回表2死満塁、勝ち越しの2点適時打を放った愛産大工の品川祐大君＝小牧

同点で迎えた9回2死満塁。愛産大工の品川祐大君（3年）に打順が回ってきた。この夏、初めての打席。「初球がストレートなら、絶対に打とう」。狙った通りの内角の直球が来た。打球が中前に落ちるのを見届けると、笑顔がこぼれた。決勝打になった。

県内で最も多い123人の部員がいる。3年生13人は今春、引退してサポート役の「学生コーチ」になった。その中で品川君はベンチ入りをもぎ取った。「どうしても今日は、勝ちたかった」。理由があった。

品川君の自主練習にいつも付き合ってくれた学生コーチの平野祐也君（3年）がスタンドに来てくれたからだ。6月に登校中に交通事故に遭い、入院中。この日は許可を得て、松葉杖で応援に駆けつけた。

この日、チームは打線がふるわず、3回まで無安打。先取点も奪われた。品川君は「力が入っているな」と感じた。でも「2点差ならいける」と、ベンチから仲間を励まし続けた。

同点に追いついた後の8回の守備で、品川君は二塁手に起用された。「ベストパフォーマンスをしよう」

9回の攻撃前、鈴木将吾監督(38)は、ベンチ前で選手に言った。「必死になってつなごう」。先頭の平田皓大主将（3年）が内野安打で出塁。そして、品川君が一振りで期待に応えた。スタンドの平野君は「泣きそうになった」。

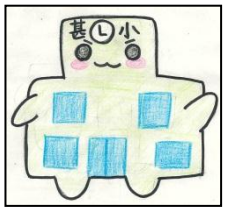
品川君は「全員が戦力だと思っている。次も、いざという時のために準備したい」と力強く語った。

（小林直子）

平成 20 年度卒業生
（7/23 朝日新聞朝刊）

「恩送り」は「恩返し」

私たちが今日を迎えるまでには、どれだけ多くの人のお世話になってきたことでしょう。自分を生み育ててくれた親、人生の岐路で背中を押してくれた恩師や先輩、くじけそうになったときに励ましてくれた人・・・・。そこには「返しきれない恩」も「直接お礼を言うことのできない相手」もあるのではないでしょうか。そうした場合、恩人への感謝の心を「他の人への善意」として送っていくことはできます。今の自分にできることを通じて周囲に喜びをもたらす「恩送り」は、間接的な「恩返し」といえるでしょう。
（ニューモラル 540 号より）



甚小キャラクター
「じんちゃん」